

2023年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

次の(設例)を読んで、問(1)、(2)に答えなさい。

(設例)

1. 2022年10月2日、M市内のアパートに住むVが同アパート付近の山林から遺体で発見され、M警察署警察官K1は、殺人事件として捜査を開始した。甲が同月1日にVと口論していたとの目撃情報などがK1のもとに寄せられた。K1は、同月6日午前9時ころ、部下の警察官K2、K3およびK4とともに、甲のアパートに行き、「Vさんのことで聞きたいことがあるので、M警察署まで同行してくれますか。」と言ったところ、甲は、部屋の外に出てきて、「俺は関係ない。行く必要はない。」などと言った。K2、K3およびK4は、同行を拒否して暴れる甲をその腕や両脇を掴まえて同アパート前に停めてあった捜査用車両まで連れて行き、後部座席中央に甲を乗せ、その両側にK2およびK3が甲を挟むようにして乗って同アパートを出発し、同日午前9時30分ころM警察署に到着した。直ちにK1は、同署刑事課取調室において、甲の取調べを開始した。取調べは、数回の休憩をはさみ同日午後2時ころまで断続的に続けられた。取調室には、K1のほか立会人の警察官K5が配置され、取調べの間の食事等の休憩時間においては、取調室の出入口ドアは開放状態にされたが、K5が同取調室外の廊下で待機した。また、甲が取調室の近くにあるトイレを使用する際には、K5がトイレまで同行した。
2. K1は、同日午後2時5分、甲をV殺害の被疑事実で通常逮捕し、翌7日午後1時10分、M地方検察庁検察官への送致手続をとった。送致を受けた検察官は、同日午後3時、逮捕被疑事実と同一の被疑事実でM地方裁判所裁判官に勾留請求をした。

問(1) (配点: 20点)

(設例)中の事実1の警察官K1～K5の行為の適法性について述べなさい。

問(2) (配点: 30点)

裁判官は、(設例)中の事実1の警察官K1～K5の行為が違法であると判断した場合、検察官の勾留請求を却下すべきかについて、理由を付して述べなさい。ただし、勾留の理由および必要については述べなくてよい。